日本産業衛生学会東海地方会
地方会ニュース

発行所　東海地方会ニュース編集事務局
〒541-0056
大阪府大阪市中央区久太郎町 2-1-25　JTB ビル 7F
株式会社 JTB コミュニケーションデザイン
ミーティング＆コンベンション事業部内
FAX：06-4964-8804
発行責任者　斉藤　政彦

題字　皿井　進筆

巻　頭　言

時代の波に呑まれてもしぶとく生きる

岐阜大学大学院医学系研究科　産業衛生学分野　前准教授　**井奈波　良　一**

筆者は当初、保健所医師を目指していましたが、諸般の事情で約 40 年間、大学で主に産業衛生学に関する教育・研究に携わり、この 2020 年 3 月をもって岐阜大学を定年退職しました。1989 年 10 月に当大学に赴任し、日本産業衛生学会東海地方会に加えて頂き、多大なご支援を賜りました。本会では、主として振動障害研究会のメンバーとして活動してきました。1999 年秋、筆者の所属していた衛生学講座は、岐阜大学医学部の生き残りのためというスローガンの下、存続の危機に陥りました。当時、衛生学講座はどうなるのかと、1 日に何回も問われ、答えるすべもなくただ口を閉ざすしかなかったことが思い出されます。大学院生、研究生はかなり動揺していましたが、幸い途中で辞める者はいませんでした。この騒動のさなかでしたが 2000 年に何とか日本産業衛生学会東海地方会学会を岐阜市で開催できました。ひるがえって、20 世紀末から 21 世紀初頭は、ヒトゲノムの解読と遺伝子工学の進歩が医学研究領域に大きな影響を与え、再生医療が萌芽した遺伝子万能の時代でした。その経緯もあり、結果的に、衛生学とは無縁の再生医科学関連講座に改変されてしまいました。しかも、筆者の専門外の施設への転職を勧めてきた再生医科学推進派の教授がいたことなどもあり、一時メンタル不調に陥ってしまいました。幸い、諸先生方のご支援により、筆者が辞めるまでという条件付きで産業衛生学分野が新設され、独立することができました。その後、約 20 年間経ちましたが、大学院再生医科学専攻は廃止になりました。一方、2019 年 12 月、筆者が所属してきた産業衛生学分野は、筆者の退職後も存続することが決定されました。事ここに至った経緯の詳細はよくわかりませんが、産業衛生学分野が医学教育モデル・コア・カリキュラムのなかの「社会・環境と健康」などの講義を担当していることや、筆者が衛生管理者として医学部内の職場巡視を実施していること、さらに学内で重要度が高まっている環境に関する研究を行ってきたことなどが関係していると思われます。時代の波に呑まれても、細々ですが、しぶとく生きてきたことが現在につながっていると思います。ただ、一人親方として体力的なこともあり、東海地方会にそれほど貢献できなかったことが残念でなりません。

開　催　報　告

2019 年度日本産業衛生学会東海地方会学会開催報告

藤田医科大学　医学部公衆衛生学講座　教授　八　谷　　寛

皆様のご協力を得て、2019 年度日本産業衛生学会東海地方会学会を無事に開催することができました。準備の至らなさや交通の便の悪さもありましたが、97 名の方にご参加いただきました。厚く御礼を申し上げます。

産業現場は働き方改革が進められ、ディーセントワークの実現、少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少に対応した職場づくり、育児・介護・疾病治療との両立など労働者のニーズの多様化といった問題への対応が求められています。産業保健専門職は最新の医学的・社会的エビデンスに基づき、労働者を支援することが求められています。このような思いで、学会のメインテーマを「エビデンスに基づく健康な働き方」としました。

午前は 12 名の先生方から一般演題発表をいただきました。発表内容は化学物質、労働者支援のあり方、産業保健史、メンタルヘルス・生活習慣病対策と多岐にわたる興味深いものでした。本年度はすべての一般演題発表を 1 つの会場で実施しました。これにより、参加者が一堂に会してより有意義な討論をすることができたのではと思います。

午後は 3 名の先生をお招きしてシンポジウム「治療と就労の両立の実現に資する最近の臨床知見」を開催しました。河田健司先生（藤田医科大学医学部臨床腫瘍科教授）には肥満、ドコサヘキサエン酸、ビタミン D、運動とがん予防に関する最新の研究結果、および、がんゲノムパネル検査が診断・治療に与えるインパクトをご解説いただきました。黒川淳一先生（犬山病院副院長、名古屋経済大学人間生活科学部特任教授）には精神科診断に対する精神科医・産業保健従事者の認識・対応のギャップを整理いただいたうえで、精神障害を有する労働者のケアのあり方をご提示いただきました。村松崇先生（藤田医科大学医学部循環器内科准教授）には冠動脈疾患の診断技術の進歩、最新の治療・リハビリテーション、カテーテルを用いた弁置換術について、実際の画像・動画を供覧いただきながらご解説いただきました。

一般演題発表風景

私ども藤田医科大学医学部公衆衛生学講座は労働者の生活習慣病、ストレス、筋骨格系障害、化学物質などの研究を行っております。本学会を開催できましたことをきっかけにさらに活動を発展させ、学会活動にさらに貢献できればと存じます。

シンポジウム風景

中小企業安全衛生研究会 第 53 回全国集会に参加して

社会福祉法人　聖隷福祉事業団
保健事業部　聖隷労働衛生コンサルタント事務所　所長
聖隷健康診断センター　作業環境測定室　室長
軸　丸　靖　章

2019 年 11 月 23 日に浜松市医師会館において、錦戸典子先生を代表世話人として開催されました全国集会について報告させていただきます。

メインテーマを“外国人労働者における産業保健と各種産業保健活動の優良事例を学ぶ”として、各種専門職や事業所担当者など、様々な立場の先生方から事例報告等がありました。

基調講演は安川隆子先生（安川内科クリニック）から「外国人労働者に対する産業保健サービスのあり方」として、入管法等の法規制や、職場・居住地での居心地、異文化とのコミュニケーションなど、外国人が日本で働くこと、生活することの現状や、先生の海外での活動経験を踏まえた視点での日本の産業保健サービスの課題等について発表されました。また、指定発言として内野文吾先生（ヤマハ発動機株式会社）から事業所における外国人労働者の現状について、さらに細かい視点での情報提供をいただきました。

一般演題では、産業医や保健師等の専門職から中小企業でのストレスチェックや健康づくり事業、両立支援のツール開発、産業保健サービスを提供する団体の活用等について、また、事業所担当者からは熱中症対策について WBGT 計等を活用した取り組みが紹介されました。どの取り組みもアンケート調査やその統計結果など、労働者の声を大事にしており、現場感のある活動が印象に残りました。

シンポジウムではテーマを「各種産業保健活動の優良事例を学ぶ」として、①葛西英二先生（大和郡山病院健康管理センター）から「メンタルヘルス対応」について、②森川文美先生（株式会社河合楽器製作所）から「過重労働面談」について、③高橋秀幸先生（株式会社ミヤキ）から「安全衛生委員会」について、④私から「職場巡視」について発表、意見交換等が行われました。特に興味深かったのは、私が普段の業務で係わることが少ないメンタルヘルス、過重労働に関する部分です。主治医が変わること、その体制がかわることがご本人に与える影響など、家庭の状況も踏まえて対応することは専門職の連携がより必要な部分であり、これらの対応があって現場での労働衛生管理が成り立つものであると感じました。

最後に、私自身、化学物質の労働衛生管理を推進する者として、置かれた立場でいかに効果的な取り組みや情報提供ができるか、そして連携を意識しながら業務をしてまいりましたが、まだまだ連携・活用できる部分は多くあることが分かりました。今回の経験を活かして今後も広い視野をもって事業所や労働者個人に、また産業保健全体に関わっていきたいと思います。会を運営していただきました事務局（聖隷健康診断センター）の皆様、ありがとうございました。

シンポジストの先生方

2019 年度東海産業衛生技術部会特別企画開催報告
産業安全保健活動に役立つ人間工学ナッジを学ぼう
―行動変容を促す理論と実践ワークショップ―

中央労働災害防止協会　中部安全衛生サービスセンター　衛生管理士　**鹿　島　聡　子**

2019 年 12 月 21 日（土）、イールーム名古屋駅前 A で開催されました東海産業衛生技術部会特別企画に参加いたしましたので、ご報告させていただきます。まずは榎原毅先生（名古屋市立大学大学院医学研究科環境労働衛生学）より「産業安全保健活動に活かす行動科学の理論と実践：人間工学ナッジを学ぼう」と題した基礎レクチャーがありました。私達は毎日色々な意思決定を行っています。意思決定は人間の諸特性に従って方向性を持って行われており、その例がいくつか紹介されていました。例えば経済行動学の双曲割引という考え方。これは今の価値は高い。時間が経過するほど価値が低下するという感じ方で、その感じ方を利用した事例等が紹介されました。基礎レクチャーの後は、ワークショップとして 6 つのグループに分かれて、与えられたテーマについて討議を行いました。与えられたテーマは、①化学物質管理・環境測定「個人曝露評価の必要性を理解してもらうには？」、②栄養・運動・保健指導「食塩摂取量を減らせ！減塩戦略 2020」、③作業管理・人間工学・職場巡視「高離職率の検査作業対策」の 3 つで、テーマごとにシナリオ、作業内容、解決した現場の課題、発表する内容が与えられ、はじめに個人、次にグループでアイデアを出し合いました。はじめは、なかなかアイデアが出ずに沈黙になることもありましたが、ファシリテーターの先生が上手くアイデアを引き出してくださり、アイデアが次々と出てきました。このアイデアを画用紙にまとめ、グループごとに発表しました。基礎レクチャーで学んだ人間特性を盛り込んだ色々なアイデア。どのグループの発表も短時間ながら、よくまとめられていました。発表後、榎原先生よりテーマごとのお持ち帰りとして人間工学的着想の紹介がありました。テーマ①では職務経験の長いベテランは個人曝露量が少ないであろうという着想が紹介されました。個人曝露量を考えるときに作業方法や工学的対策に目を向けることはあっても作業者のスキルについては考えておらず、その関連付けになるほどと唸ってしまいました。労働衛生 3 管理を意識して多面的に見てきたつもりですが、裏を返せば 3 面でしか見られておらず、多面的に見ることの大切さ、難しさを改めて考えさせられました。人を動かすことの難しさを日々の業務で実感する中で人間特性をうまく利用して、やらせるではない、そっと後押しする産業衛生活動のヒントを得た特別企画でした。

基礎レクチャー：榎原　毅先生

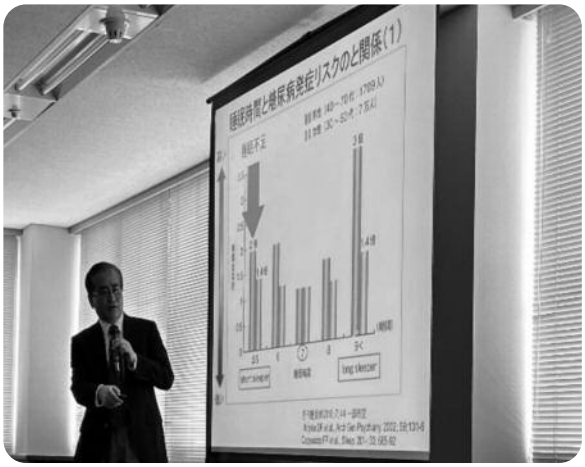
ワークショップの風景

第 32 回産業保健スタッフのための研修会を終えて

東海旅客鉄道株式会社　健康管理センター　**高　畑　真　司**

2020 年 2 月 1 日（土）に名古屋栄ビルディングにて、第 32 回産業保健スタッフのための研修会を開催いたしました。冬の寒い時期での開催となりましたが、83 名（会員 52 名・非会員 31 名）の方にご参加いただき、充実した研修会となりました。ご協力いただきました皆様に心よりお礼申し上げます。

今回の研修会のテーマは「糖尿病の健康管理・健康支援」としました。産業保健領域においてどの事業場でも課題となり得る糖尿病の健康管理・支援について改めて学びを深め、考える機会となることを目指しました。東海地方会長の斉藤先生のご挨拶に始まり、第 1 部の教育講演では、中島英太郎先生（中部ろうさい病院糖尿病・内分泌内科部長）より、「最新の糖尿病治療と治療就労両立支援の試み」と題して、糖尿病と就労に関する知見、糖尿病両立支援手帳の概要、支援対象者からの生の声などを示していただくことで、糖尿病の就労と治療の両立支援について学ぶことができました。講演後半では、オンライン診療、最新の糖尿病治療など糖尿病臨床に関する情報もお示しいただき、産業保健職にとって貴重な学びの機会となりました。引き続き、第 2 部のパネルディスカッション「職域での糖尿病の健康管理・支援活動を考える」では、成定明彦先生（愛知医科大学）から「職場づくり・健診事後措置と保健指導・就業上の配慮」、杉本日出子先生（（株）ジェイテクト）から「健康ハイリスク者への集中型保健指導の取り組み」、菅沼要一郎先生（浜松ホトニクス（株））から「弊社における糖尿病・生活習慣病対策」、青山行彦先生（青山歯科室）から「糖尿病対策としての歯科からのアプローチ」をお話しいただきました（座長：渡井いずみ先生（浜松医科大学））。異なる立場・視点から糖尿病管理・支援に関する活動や知見を紹介していただき、新たな情報を得ることができ、研修会参加者からの質疑も含め有意義な時間となりました。



中島英太郎先生

今回の研修会では、第 1 部、第 2 部の間に、ティーブレイクタイムを約 30 分間設けました。お茶、お茶菓子を準備し、参加者間の親睦と意見交換を図る機会としました。今回の研修会では、看護職を中心に非会員の参加者が多くみられました。研修会参加をきっかけに当学会に魅力を感じて、入会者の増加、本東海地方会の発展に繋がることを願い、結びの言葉とさせていただきます。

会場風景

2019 年度　東海地方会産業医部会懇話会（Web 併用開催）に参加して

三菱重工業株式会社　名古屋健康管理グループ　産業医　**服　部　南　平**

2020 年 4 月 4 日、ウインクあいちで開催されました、東海地方会医部会懇話会に参加しましたのでご報告させていただきます。今回の懇話会は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、中止の検討もされておりましたが、Web 会議システム「Zoom」を使用することで開催が実現されました。

第 1 部はヤマハ発動機（株） 内野文吾先生に「外国人労働者の産業保健～当社における取組と課題～」をテーマに現地にてご講演いただきました。内野先生のご経験やご活動を踏まえながら、健康管理面での取り組みや対応事例についてのお話を伺い、本邦における外国人労働者の現状を具体的に学ぶ貴重な機会となりました。衛生面や医療への関心、文化的な違いによって、日本人社員とは異なる事例が多くあり、様々な外国人労働者へのニーズにも対応できるような職場づくりや順応してもらえるような教育環境が必要であると実感いたしました。講演後には会場だけでなく、Web 上からも質問が多く寄せられ、遠隔地で参加されている先生方との距離感も近く感じられました。

第 2 部は会員活動報告・検討として、2 名の先生からご報告をいただきました。

報告 1 は浜松医科大学 中村美詠子先生に「働く人の食と健康」というテーマで、浜松医科大学よりビデオ通話機能を利用してご報告いただきました。中村先生の様々なご経験を踏まえ、労働者の食生活改善に関する対応事例や研究内容についてお話しいただき、健康管理面での食事が果たす役割の重要性を再認識しました。

報告 2 は「鉄道会社での産業医活動を振り返って」と題して東海旅客鉄道（株） 高畑真司先生に現地でご報告をいただきました。事業所が各地にあること、医学適性検査の重要性と難しさ等、鉄道会社という特徴のある現場でのお話を伺うことができました。

今回、Web 会議システム「Zoom」での開催に微力ではありますが、お手伝いさせていただきました。新型コロナウイルス感染拡大に伴い、多くの学会が延期や中止となっていますが、このような新たな試みを行う機会となりました。ビデオ通話やコメント機能で遠隔地の先生でもリアルタイムに参加ができ、今後の Web 学会や配信の可能性を見出すことができたように感じております。タイムラグや音声通話の音質等、課題はございますが、新しい生活様式の実践を先立って経験できた貴重な機会となりました。

会場風景①

会場風景②

産業保健看護専門家制度と第一回登録者認定試験準備講座のご報告

（株）東芝　人事総務部　総務企画室　健康支援グループ　保健師　**髙　﨑　正　子**

日本産業衛生学会産業保健看護専門家制度は、日本産業衛生学会登録産業看護師制度（旧制度）を経て、2015 年 9 月から運用が開始されました。本制度は、「産業保健看護専門家制度登録者」・「産業保健看護専門家」・「産業保健看護上級専門家」の 3 つの資格から構成されており、それぞれ資格認定試験または資格認定審査に合格することで登録することが可能となります。

現在、旧制度からの移行登録者と新制度運用開始後の登録者を合わせて 1000 名以上が産業保健看護の専門職として活動しています。

産業保健看護の専門家への入り口の試験である「登録者認定試験」は、保健師・看護師（第 1 種衛生管理者免許取得者）であれば誰でも受験できます。合格後、産業保健看護専門家制度に登録するには、日本産業衛生学会の会員への登録が必要となり、基礎研修を 50 単位受けるなど一定の自己研鑽を経て、「産業保健看護専門家」の受験資格が得られます。この「産業保健看護専門家」合格者を、自立して産業保健看護活動が行えるレベルとしています。

産業保健看護専門家制度の目指すものは、産業保健の目的を叶える産業保健サービスを提供するための能力の充実と継続教育ラダーによる看護専門職としての能力育成と質の担保となりますので、一人でも多くの看護職に本制度を活用してもらいたいと考えています。

東海地方会看護部会としても、本制度への入り口となる登録者試験受験者を支援したいと考え、昨年 10 月 6 日に初めて、登録者認定試験準備講座を開催いたしました。

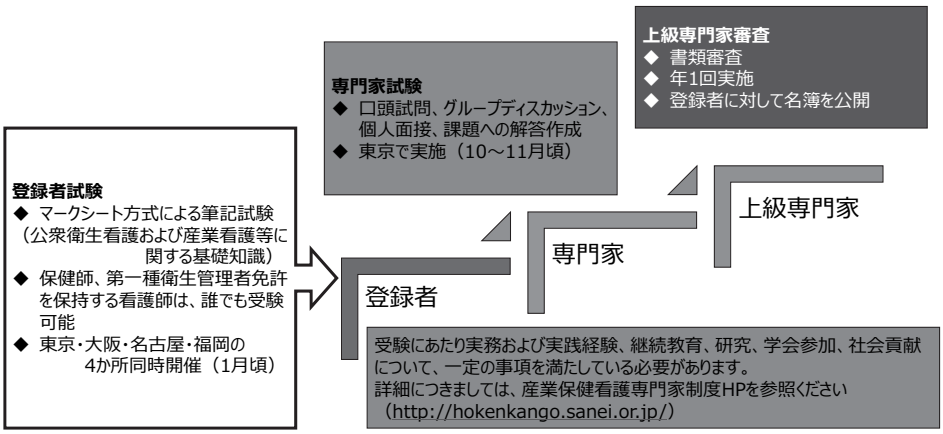
講師には、当地方会理事でもある名古屋大学 西谷先生と四日市看護医療大学 後藤先生のお二人にご協力いただき、約 5 時間かけて保健師国家試験レベル相当の試験対策講座を、どこにポイントをおいて学習すれば良いか、15 名の参加者の方々へわかりやすく伝えていただきました。

また本講義内容は受験勉強に役立つだけでなく、学生時代の受験であれば、マークシートにも慣れていますが、普段自分では体験することのできないマークシートでの試験を回答するコツをつかむことで、試験への心理的ハードルを下げられるように工夫をしています。

本講座は今後も継続していきますので、この地方での登録者認定試験受験を希望される方々には、ぜひご活用いただければと思います。

今年に入り新型コロナ感染症拡大防止のため、様々な講座等が延期や中止となっており、再開は未定ではありますが実施可能な時期となりましたら、東海地方会看護部会としても産業保健看護専門家制度を活用した自己研鑽をスタートから支援していけるような講座の継続や制度をステップアップしていけるような研修内容を提供していきたいと考えています。

専門家制度に関わる試験および審査内容



トピックス

ダイバーシティ推進委員会の活動とその所感

四日市看護医療大学　准教授　**後藤由紀**

皆様、学会本部のダイバーシティ推進委員会をご存じでしょうか？本委員会は、西賢一郎先生（ジヤトコ統括産業医：東海地方会）を委員長に、9 地方会、4 部会、専門家、担当理事から構成される 21 名の委員で構成され、2018 年 9 月に非常設の委員会として設立されました。目的は、学会員の多様なスタイルを考え、それぞれのニーズに応じた学会活動を行うことをサポートすることです。現在は主に女性および若手会員の学会活動の活性化を狙った活動を行っています。

これまでの活動としては、総会・協議会において会員参加型プログラム（ワールド・カフェ）を開催しました。このプログラムで、学術集会の参加がモチベーション維持につながっており、同時に子育て世代は、託児の充実や子連れ参加、学会の IT 化など参加しやすい仕組みを希望している等の会員の生の声が明らかになりました（詳細は産業衛生学雑誌 62 巻 1 号 pA1-2, 2020. 1 をご覧下さい）。また各地方会会長等へのアンケート調査や託児利用者アンケート調査の結果、各地方会・部会が企画する行事では、費用の問題や会員からの要望が無いため託児設置は殆どされていない実態がわかりました。地方会行事は、開催が半日や 1 日と短く場所も比較的近いことから会員はそれぞれの地域資源の利用していることも推察され全国規模の行事に比べると託児施設の必要度は低い可能性、その一方で子ども帯同可能な行事実施の実績もあり、委員会としては、今後も学会員が参加しやすくなる方法を検討すべきとの結論に至っています（内容は同第 62 巻 4 号に掲載予定）。このように、ダイバーシティ支援の現状を会員・組織の双方向から把握し、今後の学会運営におけるダイバーシティ、特に託児施設の在り方について理事会への提言を行いました。さらに関連学会や男女共同参加関連イベントなどに参加により情報収集・発信に努めています。

さて、私が本委員会に参加して 2 年が経過しました。本委員会で得た様々な学びからダイバーシティ支援の必要性・重要性を感じています。私自身、子育て時代は「小さい子がいるから、母親だから」といった役割の無意識バイアスで学会活動や学術集会への参加を諦めて受け入れていました。今の時代、SDGs 推進や働き方改革が求められる中、ダイバーシティはとても重要な要素です。特に SDGs は、次世代に素晴らしい社会を引き継いでいくものです。学会活動もダイバーシティを推進し産業保健のプロフェッショナリズムを次世代に継承する必要があると考えています。

東海地方会は、職種や世代を超えた会員同士の交流が活発だと感じます。例えば、ベテラン専門家による調査研究の支援など、会員のニーズを探りかつ多様な価値観を受け入れ発展しています。これらの強みを生かして、若手や女性はもちろん様々な学会員にとって有益な取り組みを他の地方会に先駆けて提案できるとよいと考えます。子ども帯同 OK の地方会学会、新型コロナの影響で急速に導入されたオンラインを用いた研修会、若手がイニシアチブを握ったシンポジウム企画、、、ダイバーシティを推進する何か良いアイデアはないでしょうか？是非、会員の皆様のご意見やアイデアを委員会にお寄せください。また全国規模の行事などにおけるダイバーシティ推進委員会企画のプログラムにも足を運んでいただければ幸いです。興味関心実践の輪が広がっていくことを期待しています。よろしくお願いします！

教　室　紹　介

愛知学院大学歯学部口腔衛生学講座の紹介

愛知学院大学歯学部口腔衛生学講座　准教授　**加　藤　一　夫**

この機会を借りて、当講座の教育や研究活動などをご紹介させていただきます。1961 年、愛知学院大学に歯学部増設が認可され、その 2 年後、故榊原悠紀田郎名誉教授の着任により、口腔衛生学講座（当時は教室）は開設されました。その後、主任を務められました中垣晴男名誉教授が 2012 年に退職され、現在は、嶋﨑義浩教授、加藤一夫准教授、野々山順也助教、橋本周子助教および非常勤講師が講座の運営に当たっています。

当講座の英語名は、Department of Preventive Dentistry and Dental Public Health です。口腔衛生学は「個人および公衆を対象に歯科疾患を予防する衛生学」であり、予防歯科学と公衆歯科保健学を包含するという考えに由来します。口腔衛生学の活動分野は、歯科疾患の予防管理、栄養・食生活、口腔内および社会経済的な環境から、学校歯科保健、母子歯科保健、産業歯科衛生など広く公衆歯科保健分野にわたります。

歯や口腔の健康は、単に食物を摂取・咀嚼するに留まらず、食事や会話を楽しむなど生涯を通じて豊かな生活を送るための基礎であり、口腔の機能はコミュニケーションを図る上でも重要です。また、口腔は消化器官の入口に位置し、呼吸器系の一部分も担うことから、全身の健康とも密接に関連します。口腔のケアと誤嚥性肺炎に代表される呼吸器感染症の予防、口腔機能低下症と高齢者の全身への影響（低栄養・フレイル・要介護状態）や老年期の QOL、歯周病と糖尿病や骨粗しょう症といった全身性疾患あるいは妊娠との相互作用などは周知のところとなりました。在宅歯科医療や周術期口腔機能管理の分野では、医科と歯科の連携が診療報酬の上でも評価されています。

当講座が携わる教育は、歯学教育の中で、唯一社会系歯学という位置づけです。現在は「社会と歯学」という科目名で、2 年生で衛生・公衆衛生学、3 年生で口腔衛生学、4 年生で社会歯科学の領域を担当し、実習を 4 年生で行うとともに臨床実習にも関わっています。

公衆歯科保健に関わる研究や活動では、齲蝕予防を目指した学校保健活動の一環として 1988 年に開始した県内の 1 小学校でのフッ化物洗口が、健康日本 21 あいち計画に採用され、現在では愛知県下で約 350 校までに拡大しました。また、1992 年に行った常滑市での 80 歳歯科健康調査から、歯を残すための生活習慣が明らかになり、それを参考に作成した「歯の健康づくり得点」は、愛知県飛島村など地域での住民の健康づくりや学校での保健指導に活用されています。

産業衛生分野では、主に産業従業員を対象として、口腔保健による介入が健康度の改善に及ぼす影響、歯周病と喫煙やストレスなどの環境因子や糖尿病との関連などを追求してきました。産業衛生の中で歯科が担当する領域は特殊健診などに限られますが、産業従業員の健康つくりという観点から、今後は更に連携できればと思います。

受　賞　記　事

緑十字賞受賞のご挨拶

愛知医科大学　教授　**柴　田　英　治**

昨年、中央労働災害防止協会から緑十字賞をいただきました。推薦してくださった東海地方会長の斉藤政彦先生、ご指導をいただいた竹内康浩先生はじめ諸先輩方、さらにお世話になった東海地方会の皆様方に心から感謝いたします。

名古屋大学を卒業して当時の医学部衛生学教室の門をたたき、有機溶剤中毒の研究に始まり、嘱託産業医活動をする中で実践活動の経験を積むことができ、さらに中小企業の安全衛生、最近は地域・職域連携に興味を持つようになりました。

私にとって 2012 年に報告された印刷工場における胆管がん多発問題は中小企業の安全衛生、さらにわが国の産業衛生を考える上での転機になりました。このような事態が発生しない仕組みをつくるにはどうしたらいいのかを考えることで課題が見えてくる気がします。この分野での議論だけで問題が解決するわけではなく、様々な方面の人材や考え方を取り入れてこそ、産業衛生の課題の解決と発展、ひいてはわが国の公衆衛生全体の発展といえるという意味で広い視野が必要であることに気づかされました。

今年はウイルス感染症の克服に世界の関心が向いています。そんな中で人々の生活になくてはならない作業をする人たちに注目が集まりました。私たちの社会生活はこれらの貴重な労働に支えられて成り立っていることに今さらながら気づかされます。働くという人間の基本的な活動を健康面で支えるのが私たちの分野の役割とも言えそうです。今回の受賞を機に、気持ちを新たに働く人々の健康に係る研究・実践、人材育成にさらに力を注ぐ決意です。東海地方会は世代横断的なコミュニケーションがうまくいっていて、みんなで楽しく様々な活動ができる場です。私自身は若い人たちの成長を支えることを主眼に活動を続けます。これからもよろしくお願いいたします。

緑十字賞受賞報告

ヤマハ発動機株式会社　健康推進センター　統括産業医　**内　野　文　吾**

少し前になりますが、去る令和元年 10 月 23 日、京都で開催された全国産業安全衛生大会において、緑十字賞を受賞させていただきました。COVID-19 が世界的問題になっている昨今、今年度の大会は中止とのことですので、一堂に会したセレモニーに参列できたことは幸運でした。受賞以降、様々な場において数えきれないほど多くの方々から祝辞を賜りました。これまでご指導・ご支援をいただきました東海地方会の先生方をはじめ、学会を通じて勉強させていただいている産業医仲間、日ごろの業務を支えてくれているスタッフなど、関係するすべての皆様にこの場をお借りいたしまして、心より感謝申し上げます。

今回、私は日本自動車工業会（以下自工会）よりご推薦をいただきました。自工会は、四輪車または二輪車の完成車を生産している 14 社が加盟しており、その中の産業医分科会に加えていただいております。自工会では小さいほうの規模の会社ですが、会合に参加するようになって 16 年余りと分科会の中では長くなりました。専属産業医としての経験は、まさに会社と苦楽を共にしてきたというところで、いい時も悪い時もありました。今はまさに、このコロナ禍により新たな経験を積んでいる最中で、何年携わっていても現場から学ぶことの毎日です。

私にとって、この度の受賞はこれまでの功績というよりは、「これからも精進して社会のために努力せよ」という激励だと受け取っております。自らの経験が一人でも多くの働く人を守るための糧となるように、また現場の産業医・産業保健スタッフの育成につながるように、現場を通じて社会に貢献していきたいと考えております。今後とも、引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

会　員　の　声

新理事のご挨拶

名古屋大学大学院医学系研究科　環境労働衛生学　准教授　**大　神　信　孝**

この度、日本産業衛生学会東海地方会の理事を拝命いたしました、名古屋大学の大神信孝と申します。このようなご挨拶の機会を頂き、大変光栄に思います。

私は熊本大学大学院で博士（薬学）取得後に米国の Dartmouth Medical School で約 5 年間、神経変性疾患と関連する脂質代謝の基礎研究に従事しました。帰国後は、中部大学 生命健康科学部の環境衛生学教室（加藤昌志教授）に参加させて頂いたのを契機に、聴覚系の研究に着手しました。WHO によりますと、現在の聴覚障害の患者数は世界で約 4.6 億人を超えており、携帯型の音楽プレイヤー等の長時間の過度の使用により、将来的に世界の 12-35 歳の年齢層の若者の半数にあたる約 11 億人が聴覚障害を発症すると警告されています。一方、聴覚障害の予防に関しましては、遮音で防御する以外に抜本的な予防法は確立されておらず、環境労働衛生学分野におきましても大きな問題となっております。このような背景をうけ、私はヒトとマウスを対象に聴覚障害の研究に取り組み、名古屋大学大学院医学系研究科 環境労働衛生学教室（同教授）に赴任して以来、聴覚障害に関連する重金属などの環境因子を調べる疫学研究と実験研究に取り組んでおります。また、我々は、産業現場で発生している低周波騒音の健康リスク評価もセットアップし、予防法の開発を進めると共に、低周波騒音の様々な生理的影響も調べています。

地方会理事としては未熟者ではございますが、産業衛生学会の発展に貢献できるよう、今後も学会活動に尽力させて頂きます。ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

ご挨拶

よし健株式会社　代表取締役　**芹　澤　良　子**

静岡県東部で嘱託産業医をしております芹澤良子と申します。

私は、東京女子医科大学卒業後、整形外科医として勤務しておりましたが、結婚を機に、バイト感覚で始めた健診機関の業務の中でも嘱託産業医の仕事に魅せられ、産業医の道を歩み始めました。

しかし産業医を始めた当初は、企業への関わり方がよくわからず途方に暮れておりました。そんな折、偶然、静岡県に来訪された産業医科大学の教員の先生（梶木繁之氏：現　産業保健コンサルティングアルク　代表取締役）にお目にかかる機会があり、以後、御指導いただいております。

先生からの勧めで産業医科大学の基本講座を受講し、産業医としての基礎知識を身につけるとともに、労働衛生コンサルタントの取得を通じて実務もこなせるようになりました。目下の目標は日本産業衛生学会の専門医を取得することです。ビジネスでは産業保健サービスを提供する「よし健株式会社」を設立し、生まれ育った静岡の地で産業医として地域企業の労働衛生の向上に寄与できるよう活動しております。

産業医の魅力は、「嘱託産業医として多業種の産業保健に関わることができること」と「企業毎に異なる産業保健ニーズを汲み取り、どうアプローチしたら良いかを考えながら活動すること」です。

本年 5 月に旭川で開催予定だった学会は Web 開催となり、残念ではありますが、育児中の私にとっては、在宅でも勉強できる機会となり、大変ありがたく思います。新型コロナウイルス対策は地域差があるため、静岡産保産業医カンファレンスや地元の産業医の先生方からいただく情報もとても有用で助かっております。今後も、精進してまいりますので、何卒よろしくお願いいたします。

産業保健師 8 年目の今考えること

東芝キヤリア株式会社　安全・健康推進担当　保健師　**荻久保　貴　史**

はじめまして、この度は執筆の機会を頂き、ありがとうございます。私は会社員を経て看護師になり、病棟や外来で 7 年働いた後、縁あって現在の会社で保健師として勤務しております。産業保健に至るまでの道のりは遠回りでしたが、会社員時代の両親の病気を機に、働く世代が疾病や障害を抱えながらも（あるいはより wellbeing を目指し）納得のいく生き方を全うできるような支援に携わりたいという思いが、仕事へのモチベーションの基となっています。

弊社は、東芝グループの社会インフラ領域で主に空調機器の製造を担っており、富士事業所はマザー工場としての役割を期待されています。私が所属する部署は、統括産業医、精神科医 1 名（非常勤）、保健師 2 名、薬剤師 1 名の体制で、富士を含め、国内約 2000 人の従業員の健康管理を人事や職場と連携を取りながら、展開しています。

産業保健活動に携わる中、関わった従業員から感謝の言葉を頂いたり、委員会や部会での取り組みが軌道に乗った時は、やりがいを感じる一方、様々な思惑が交錯する組織の中で不自由さを感じることもあります。そのような時は、保健師の選任義務のない会社に、自分たちがなぜ雇われていて、どんな成果を期待されているか、それに対して今の立ち位置でどのようなアウトプットができるか、振り返るようにしています。また、産業医の仕事の 99%は保健師ができる（1%は診断の部分）という弊社産業医からの厳しくもありがたいエールを意識しつつ、日々学び成長することの必要性を痛感しています。

至らない点も多いですが、本会始め様々な場を通して、知見を深められるよう努めて参りますので、今後とも皆様からのご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

入会のご挨拶

株式会社東海分析化学研究所　労働衛生コンサルタント　作業環境測定士　**大　場　恵　史**

2019 年度から日本産業衛生学会に入会させていただきました、株式会社東海分析化学研究所の大場恵史と申します。

私は、学生時代に工学部の応用化学科で、工業材料の機器分析法の開発をしておりました。卒業後は、化学メーカーに入社し、分析研究部門に配属されました。当時盛んに新規材料開発の研究がされていた有機 EL 色素、カーボンナノチューブなどを社内の研究者から預かり、GC-MS や LC-MS/MS といった分析機器を用いて、ひたすらそれらの構造解析や不純物分析に追われる毎日を過ごしました。

その後、作業環境測定機関である現在の会社に入社しました。この会社は受託分析会社であり、作業環境測定以外に、環境計量、水道水分析など、測定対象は多岐にわたります。私は当時会社が新規参入を狙っていた食品分析部門に配属されました。当時は、野菜の残留農薬や、ブロイラーや養殖エビでつくった加工食品（フライドチキンやエビフライです）中の残留抗生物質などの公定分析法として、LC-MS/MS 等を用いた方法が新たに取り入れられた時期でした。そこでは、フライドチキンやエビフライの残骸に追われる日々でした。

その後、作業環境測定士として、特に現場でのサンプリングを通して、労働衛生の仕事に携わるようになりました。近年は労働衛生工学のコンサルタントの勉強もさせていただいております。労働衛生の分野は、本当に幅広くかつ奥が深い知識や経験が必要であると実感しております。一方で、個人サンプリング法が作業環境測定に取り入れられるなど新たな動きも進んでいます。分析化学、衛生工学の専門家として、少しでも現場で働いている方々のお役にたてるよう、勉強していきたいと思っていますので、どうかよろしくお願いいたします。

事　務　局　か　ら

地方会理事会

2019 年度　第 3 回理事会

日時：2020 年 1 月 25 日（土）10:00－12:00

場所：中部大学鶴舞キャンパス 610 号室

【議題】

I. 前回理事会議事録（案）の確認

II. 審議事項

1）過去の記録の収集と維持管理について
2）事務局における資料保管について
3）会員への情報発信について
4）地方会学会の開催方法について
5）2021 年度地方会学会について
6）選挙の進め方について
7）次回の理事会日程について
8）その他

III. 報告事項

1）第 31 回日本産業衛生学会全国協議会準備状況
2）2019 年度地方会学会開催報告
3）2020 年度地方会学会準備報告
4）第 32 回産業保健スタッフのための研修会準備報告
5）本部理事会報告
6）地方会事務局報告
7）地方会活動方針検討委員会
8）学術研究推進委員会
9）編集委員会
10）研修会企画委員会
11）表彰制度推薦委員会
12）部会報告
13）職場ストレス研究会報告
14）各県の活動報告
15）その他報告事項
16）関連学会等開催情報
17）その他

2020 年度第 1 回理事会

日時：2020 年 6 月 6 日（土）10:00－12:00

場所：WEB 会議

【議題】

I. 前回理事会議事録（案）の確認

II. 審議事項

1）2019 年度活動報告
2）2019 年度決算報告
3）過去の記録の収集と維持管理について
4）2021 年度地方会学会について
5）選挙の進め方について
6）次回の理事会の日程について
7）その他

III. 報告事項

1）第 31 回日本産業衛生学会全国協議会準備状況
2）2020 年度地方会学会準備報告
3）第 32 回産業保健スタッフのための研修会開催報告
4）本部理事会報告
5）地方会事務局報告
6）地方会活動方針検討委員会
7）学術推進委員会
8）編集委員会
9）研修会企画委員会
10）表彰制度推薦員会
11）部会報告
12）職場ストレス研究会報告
13）各県の活動報告
14）その他報告事項
15）関連学会研究会開催情報
16）その他

会員状況

2019 年 10 月 1 日～2020 年 4 月 30 日の推移
（2020 年 4 月 30 日現在）

	愛知県	静岡県	三重県	岐阜県	合計
新入･再入会員	31	16	1	5	53
転入会員	4	2	0	1	7
地方会内転入	2	1	0	0	3
退会会員	-27	-11	-8	-5	-51
転出会員	-2	-2	0	-1	-5
地方会内転出	0	-1	-1	-1	-3
増減	8	5	-8	-1	4
本部正会員	524(3)	229	104	41(1)	898(4)

※(　)は学生会員を表す

これからの行事予定

2020 年度日本産業衛生学会東海地方会
日時：2020 年 11 月 14 日（土）
場所：愛知教育大学 第二共通棟
テーマ：発想を拡げ、協力して
産業衛生研究・実践を進めよう
シンポジウム：発想を拡げ、協力を進めよう

第 79 回日本公衆衛生学会総会
会期：2020 年 10 月 20 日（火）～22 日（木）
場所：オンライン開催
テーマ：健康・医療・介護の未来づくり
：Social Joint Venture（社会的協働）

第 30 回日本産業衛生学会全国協議会
会期：2020 年 11 月 20 日（金）～22 日（日）
場所：かごしま県民交流センター
テーマ：多様性を支える産業保健

日本産業看護学会　第 9 回学術集会
会期：2020 年 11 月 28 日（土）～29 日（日）
場所：奈良春日野国際フォーラム I・RA・KA
テーマ：多様な健康課題を持つ人の
「働く」を支える産業看護
～明日へのつなぐ看護実践と連携～

第 28 回日本産業ストレス学会
会期：2020 年 12 月 4 日（金）～5 日（土）
場所：オンライン開催
テーマ：働き方改革と産業ストレス
：主体的朗働の創生に向けて

編　集　後　記

2019 年 7 月に旧 VDT 指針が改定され「情報機器作業における労働衛生管理のためのガイドライン」が施行されました。タブレット・スマホ等の携帯情報端末も指針の対象になりました。コロナ禍において、それら技術の恩恵を受けて働くクラウドワーク・テレワークといった就労形態も更に増えることが予想されており，今後安全衛生の恩恵を受ける人・受けない人の格差拡大が懸念されています。まさに ICT 時代における OSH ディバイド（労働安全衛生の恩恵を受ける人・受けない人の格差）の解決も議論すべき時期に来ているように感じる今日この頃です。

名古屋市立大学　榎原　　毅

東海地方会ニュース
編集委員長　：池田友紀子（キヤノン）
副編集委員長：西谷　直子（名古屋大学）
編集委員　　：赤津　順一（日本予防医学協会）
榎原　　毅（名古屋市立大学）
河南　文子（メタウォーター）
後藤　由紀（四日市看護医療大学）
近藤　　祥（聖隷健康診断センター）
榊原　洋子（愛知教育大学）
菅沼要一郎（浜松ホトニクス）
城　　憲秀（中部大学）
山本　　誠（ヤマハ）

東海地方会事務局
〒541-0056 大阪市中央区久太郎町 2-1-25 JTB ビル 7F
株式会社 JTB コミュニケーションデザイン
ミーティング＆コンベンション事業部内
FAX：06-4964-8804 E-mail：jsoh-tokai@jtbcom.co.jp

印刷・製本
〒675-0055 兵庫県加古川市東神吉町西井ノ口 601-1
有限会社トータルマップ
TEL：079-433-8081 FAX：079-433-3718